



衣川 正一

『ニセ隕石に注意』

昨年10月に京都市勧業館・みやこめっせ（左京区岡崎公園）で開催された『石ふしぎ大発見展2012』を見に行きました。美しい鉱物や岩石・化石などがたくさん展示されています。自然石ブームで若い女の子からオバちゃんまで、女性の客が目立ちます。出店者は国内はもちろん中国系、インド系、中東系と国際色豊かでした。私は鉄鉱石や磁石につく石と鉱石の結晶などを探しました。全ての面が五角形、十二面体の黄鉄鉱の結晶（山梨県産）、磁石につく石コロ（磁鉄鉱か？大分県産）、アメリカ（ユタ州）産の自然銅など、重い石コロをリュックに背負い、会場を歩き回りました。

もう一つの目的は、数個展示されている南極の隕石でした。南極の隕石を展示しているコーナーで説明員のおじさんに聞きました。『隕石を見分ける簡単な方法がありますか？』『外見では地面の石と区別がつかないでしょう。成分的にもほとんど同じですから』でも『隕石を割るとすぐ判りますよ。中の成分が丸く固まっているのが隕石です。』詳しく聞くと、『無重力の環境で、溶けた岩石がゆっくりと冷えてゆくと、それぞれの成分が集合し球状に凝固するそうです。』よく判りましたが、高価な隕石を壊して確認することは出来ません。たまたま、壊れたのが一個『鉄のふしぎ博物館』に展示してあります。破面をよく見ると球状の小さな塊が見えます。これは本物だったのです。ちなみに、この隕石は磁石につきます。

先般、2013年 2月15日、ロシア南部チェリャビンスクで「落下隕石」がありました。「隕石」の販売が始まったのは落下当日の15日、インターネット上のサイトです。「ロシア南部チェリャビンスク州周辺に落下した隕石の破片」と称した石が、1万ルーブル（約30万円）から50万ルーブル（約154万円）の値で販売されていました。警察当局はこの石を証拠品として押収し、隕石かどうかの分析をすると発表しています。ニセ物の隕石販売を抑制する為でしょう。

友人から頂いた台湾みやげの隕鉄には写真のような証明書がついています。中国大陸に落ちた隕鉄であると書かれています。この石は磁石に強烈につきます。けっこう重量感があり、比重は 5.0を超えている様子、高速カッターで切断しましたが、金属のような面は現れません。砂鉄の入った皿の上に乗せると砂鉄が一杯つきました。あれ？あれ？これは微弱な天然磁石（磁鉄鉱の一部）で隕鉄ではなかったのです。隕鉄が大気圏を通過するとき熱せられ高温になり、磁性を無くしてしまうのです。



「鉄のふしぎ博物館」

来て！見て！ふれて！ ふしぎ体感

鉄を見る目がかわりますよ。
 ぜひお越しください。



むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！

ホームページと電子メールをご利用ください。
<http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
ryou@memenet.or.jp

本物の隕石



モロッコ 1976年
 76 g 42mmx36mmx32mm